



発行：無実のゴビンダさんを支える会
事務局
Justice for Govinda
-Innocence Advocacy Group
March.1.2005

元旦に年賀状もらったとき、喜びの涙、 出ました

横浜刑務所で2度目のお正月を迎えたゴビンダさんから、1月11日付で手紙が届きました。そこには「元旦に年賀状もらったとき、喜びの涙、出ました。支援者のみなさんに、私からの『あけましておめでとうございます』のあいさつ、伝えてください」と、いつもの几帳面なローマ字で書かれていました。

1月7日、神田弁護士が今年最初の面会に行かれた時、ゴビンダさんは「最近、体調は良いです。睡眠薬なしでもよく眠れる。規則にも慣れたし、冤罪であることを作業場の仲間たちも理解してくれるようになったので、以前より生活は楽になりました」と語り、しかし「事件とは何の関係もないのに囚われている。そのことがもっとも苦しい。真実を明らかにして早くここから出るため、たとえどんなに難しくても、再審請求するしかありません」と明言したとのこと。

ゴビンダさんの強い意思を確認した弁護団は、現在、再審請求のための準備を進めています。私たちは、支援者の立場から、全力をあげて再審をサポートしていく決意です。冒頭の言葉からも推察できるように、ゴビンダさんは、たったひとり、やり場のない怒りと悲しさに必死で耐えています。ゴビンダさんを苦しみから解放するため、「再審制度」が真の意味で誤判からの救済となりうることを証明するため、今こそ、みなさまの力強いご支援をお願いいたします。

新たな闘いにむけて支援活動のさらなる拡大、充実、強化をはかるため、来る4月3日、下記のとおり、ゴビンダさん支援集会を開催いたします。みなさまのご参加をお待ちしています。

~~~~~

## 2005 こじあけよう！再審の扉 ～ 4/3 無実のゴビンダさん支援集会

日時 : 2005年4月3日(日) 午後1時半会場 午後2時～5時

会場 : 「幼きイエス会」9階ホール (JR四谷駅麴町口徒歩1分)

プログラム(予定)

- 特別報告/ゴビンダさん再審申し立ての現状/佃克彦弁護士(ゴビンダ弁護団)
- 特別講演/再審裁判と冤罪/竹澤哲夫弁護士(元日弁連人権擁護委員長)
- メッセージ/ゴビンダさん・ご家族から
- アピール/冤罪の当事者・支援者の方たち

メルボルン事件、ニック・ベイカー事件、青梅信金横領冤罪事件、  
「ロス疑惑」冤罪事件、痴漢冤罪西武新宿線丸山事件、他。

- 報告/日本国民救援会の取り組みと方針/山田善二郎会長
- 報告/「支える会」のこれまでの活動と今後の方針/事務局

\*詳細は同封のチラシをごらんください。

2002年4月、成田空港で麻薬密輸の容疑で逮捕され、無実を訴えている英国人、ニック・ベイカーさんの支援グループから、無実のゴビンダさんを支える会あてに以下のような手紙を頂戴しましたので、掲載します。

事務局

## 明らかにになった法廷通訳の不備と、税関職員による偽証の疑い

ニック・ベイカー氏支援グループ

### 2つの新証拠を提出

ニック・ベイカー氏の控訴審第8回公判が2月22日、東京高裁で行われ、弁護側は2つの新証拠を提出しました。一つは、通訳論の専門家である水野真木子・千里金蘭大学助教授（日本司法通訳人協会副会長）による鑑定書、もう一つは逮捕時に押収されたスーツケースの中身を撮影した写真をデジタル処理し、拡大したものです。

### 通訳の不適正さを具体的に指摘

水野鑑定書は、一審千葉地裁における法廷通訳の録音テープを分析し、グロスタ州出身のニックの特殊なアクセントと口語文体が、通訳業務に慣れた者にも理解が困難であり、現に通訳者が多くの重大な間違いをしていること、また理解できない部分を自分の想像で勝手に補うという、通訳の職業倫理に抵触することを行っていることなどを具体的に指摘しています。通訳者の不明瞭な英語が理解できず、聞き直したことが、不真面目な態度として裁判官に悪印象を与えてしまっている場面などが明らかにされています。

取り調べ段階の通訳はテープ等が残されていないため検証不可能ですが、法廷通訳人よりも取り調べ段階の通訳人が優れているとは、経歴等から見ても考えがたく、通訳に関しては「本件の刑事手続き全般において、適正さが担保されていたとは考えに

くい」と結論づけています。日本語を母国語としない人々の裁判での通訳不備と裁判の不公平さを正す第一歩となるよう、この鑑定書を裁判所が真剣に検討することが切に望まれます

鑑定書の作成にあたり、ゴビンダさんを支える会の皆様からのご支援のカンパをお送りいただきました。ニック本人からも、くれぐれもよろしくお礼を申し上げたい、と伝言が届いています。

### 税関のずさんな押収手続きと偽証

また、検察側の証拠写真をデジタル処理したものは、スーツケースの鍵がメッシュ状のポケットの中に入った状態にあったことを伺わせ、ニックが鍵をケースに放り込んだ、という税関職員の不自然な証言が偽証であることを強く示唆しています。

### 懸念されるニックの健康状態

逮捕以来3年、慣れない不自然な環境と不十分で不誠実な拘置所の医療体制の下で、彼は最近原因不明の吐血や耐え難いほどの腰痛に悩まされています。前回公判では、こうした中で1時間半にわたる本人尋問で証言台に立ちました。

皆様のこれまでのお力添えに感謝致しますと共に、結審が近づきつつある中で、公正な裁判により一日も早くニックが家族のもとに帰れるよう、今後ともご支援をよろしくお願い致します。

**次回公判 4月19日 午後2時半～ 東京高裁718号法廷**

傍聴券は必要ありません。開廷時間までに直接法廷にお出で下さい。

本人尋問の予定。出来るだけたくさんの方の傍聴をお待ちしております！

## ★ゴビンダさんの故郷で、いま何が起きているのか？

『ネパールに生きる～揺れる王国の人びと』を読んで思うこと

昨秋、「支える会」ではゴビンダさんのお母さんをネパールから招聘する準備をしていた。上告棄却で無期懲役刑が確定したとき、「これでもう年老いた両親とは、二度と会うことはできなくなってしまったのですね！？」と嘆いたゴビンダさん。その悲痛な顔が忘れられず、何としても生きているうちに会わせてあげなければとの願いからだ。ところが、その頃からネパール全土の治安が悪化し、ゴビンダさんの故郷イラムも平安ではなくなり、昨年内の招聘は延期せざるをえなかった。

今年に入って、あらためて計画を練り直し、4月3日の集会の時期に来日出来るよう、ビザや航空券の手配などを進めていた。ところがまたしても「ネパール国王が全権掌握：内閣解散、事実上のクーデター」の報道、非常事態宣言まで発せられるという最悪の状況が起きた。事務局では固唾を飲んで成り行きをみまもっていたが、残念ながら国情は安定せず、高齢のお母さんの健康状態への配慮もあって、来日は再度延期となってしまった。

ゴビンダさんの故郷ネパールとは一体どんな国で、いま何が起きているのか。地理的にはそう遠くはないのだが、ヒマラヤ山麓の自然の楽園くらいの知識しかない。やはり近くて遠い国なのである。

折りしも、ネパールに惹かれ魅せられ10年間写真を撮り続けた八木澤高明氏が『ネパールに生きる～揺れる王国の人びと』（新泉社）というフォト・ノンフィクションを上梓した。ネパールを取材し描きながら主峰ヒマラヤの写真は1枚もないというそれだけでも充分異色である。カメラを見つめる子供たちの瞳、空ろな老人たちの顔、少女のあどけない笑顔、人生の刻まれた深い皺……王国の人々の表情がひたすらに迫ってくる。今日を生きる名もなき民衆たちの多くの映像から無言の叫びが聞こえてくるようだ。

ビレンドラ国王一族9名が皇太子に射殺されるという世界を騒がせた王宮事件から既に4年。真相は闇に閉ざされたままだがその事件の背景にも迫り、ギャネンドラ現国王への国民の支持が強いはいえない事を報告している。政治的求心力を失いつつある国王、経済的にも政治的にも混迷し破綻している事を暴いている。すでにこの時、八木澤氏のカメラは今回の国王クーデター事件を見抜いていたようだ。

絶望的な貧困に立ち向う過酷な児童労働、カースト制度に起因する身分差別。アウトカースト・バディは「売春カースト」で50ルピーの値段だという。非情な宿命に生きる事を余儀なくされた幼い少女の底の見えない笑顔が胸に突き刺さってくる。

インドへの人身売買、不気味なエイズ蔓延化など混迷する極貧のこの国の民主化の遠い事を訴えてもいる。

そんな中で共和制への移行を主張し「人民戦争」路線を掲げて武装闘争に活路を求めたマオイスト、いわゆる毛沢東主義派の動き。各地で人民政府を打ち立て75郡を影響下に置いたともいわれる。筆者はその支配地域を訪ね銃を取る若者たちやその幹部たちとも接触し知られざる彼らの闘いと生き様の声を多くの写真と生の声で紹介している。

戦闘の合間に仲間たちと瞬時を楽しむ女性兵士の笑顔が未来を呼びかけているのか。18歳の彼女は戦死して今はいない。政府軍側のインタビューも交えて武装闘争の内実を

多角的に追っている。

暴力の連鎖がここでも繰り返されるのか。既に両勢力の死者は1万数千人とも伝えられている。まだ和平への方向すら見えず危機打開の道は示されていない。これからが峠である。

最終章は8年前の東電OL殺人事件、「夫の無実を信じて」のタイトルでゴビンダさんの冤罪事件を東京拘置所に面会に通うラダさんの悲痛な姿とインタビューで冤罪の暗闇に光をあてている。ゴビンダさんの故郷と妻ラダさんが守る家族の切ない想いも託されている。

ネパールは神々しいまでに美しいヒマラヤの自然に囲まれた長閑な暮らし…。しかし筆者は峠の向こうの厳しい現実、明日を語れない過酷な未来があることを私達に示そうとしているかのようである。(H.K)

## 他の冤罪事件の動向

### 痴漢冤罪西武新宿線丸山事件（一審不当判決・控訴審準備中）

東京地裁は1月21日、丸山功さんに対し、懲役1年6ヶ月・執行猶予3年の不当判決を言い渡しました。被害者は犯行を目撃しておらず、消去法だけで丸山さんを犯人と決めつけています。丸山さんは無実を主張し続けたがために、2003年10月22日の逮捕から昨年2月4日に保釈されるまで74日間も勾留されました。奥さんは丸山さんを信じ、幼い子どもを育てながら必死で働いています。不当な一審判決により、丸山さんとお家族は、さらなる試練を強いられています。控訴審で真実が明らかになるよう、ご支援ください。

### 青梅信金横領冤罪事件（一審無罪確定・民事裁判開始）

一審で無罪判決を得た斎藤まさみさんが青梅信金に対して提訴した損害賠償請求は、先に青梅信金が提訴したものと併合され、いよいよ本格的な民事裁判が始まりました。そもそも、まさみさんは、このような法廷闘争を望んでしているわけではないのですが、刑事裁判で無罪判決が確定したにもかかわらず、青梅信金が不当にも提訴を取り下げようとならないため、どうしても受けて立たざるをえないのです。完全無罪判決の後もこのような闘いを強いられているまさみさんに、暖かいご支援をお願いします。

## 事務局会議

次回は2005年4月12日（火）午後7時～9時 現代人文社：信濃町駅下車徒歩5分

\* 隔月（偶数月）第2火曜日に事務局定例会議を行っています。会員のみならず、積極的なご参加をお待ちしています。

### 無実のゴビンダさんを支える会 事務局

東京都新宿区信濃町20 佐藤ビル201 現代人文社気付

留守電・FAX 0426-37-8566

e-mail: mainali@anet.ne.jp

ホームページ <http://www.jca.apc.org/~grillo>